

# ふるさと見て歩き

第22回

## ろくじさま 六字様

▶前屋・大貝集落の六字様



市の無形民俗文化財に指定されている六字様という行事を知っていますか。今でも緒川の舟地区、美和の高地地区、氷之沢地区で行われています。どんな行事なのでしょう。

### ◇緒川地域の六字様

小舟地区の前屋大貝集落では、お盆明けの十八日に「六字様」と呼ばれる行事がおこなわれます。

六字様とは「南無阿弥陀仏」の六字の名号のことで、この文字自体が仏さまと同じ意味を持つとされます。

当日は集落センターに集まって、写真のような六字様を作ります。竹でできた傘状の骨組みにお札と花飾

りをつけたもので、お札には「六字様」「南無阿弥陀仏」などと筆で書き、また版木から摺った札をつけます。

版木には阿弥陀三尊の種子、「奉納大乗妙典日本回国」「奥州仙台名取郡長袋村」と彫られています。この地は秋保温泉で有名な宮城県仙台市太白区秋保町にあたります。なぜ仙台の村からこの版木を受けてきたのか

今では全くわかりません。江戸時代に、全国を巡礼していた「六十六部」と呼ばれる人々によってこの地にもたらされたものかもしれません。地元の人たちの間では、四百年ほど前にこの地で病気が流行ったときに、長袋村に行つて受けてきたお札であるとも言われています。当時、版木を受け取ってきたものか、それとも

お札を手に入れて、それをみて土地の人が彫ったものなのか、それについても定かではありません。

このお札を花飾りとともに赤く着色して飾ります。作り終えた六字様を持って集落内を一軒ずつ歩いて回り、お札を配って喜捨を受けます。

六字様を供養した石碑が山の頂上にあります、昔はそこへもお参りに行ったようですが、その風習はやがて簡略化され、現在では山の麓の供養碑にお参りに行くことになっています。そして、そこへもお札をあげるのが通例です。

六字様はこの地域一帯で広く行われていました。小舟地区のほかの集落でも行われていたようですが、現在も続けているのは前屋大貝集落と、隣接する美和地域の一部だけになってしまいました。

### ◇美和地域の六字様

高地地区の大貝集落では六月一日に行われます。花飾りはほぼ同じものですが、こちらでは「シナイ」と呼んでいるようです。現在は世話人四人がお札を配って集落内を回り歩きます。

続いて八月十六日になると、氷之沢地区の元沢集落でおこなわれます。こちらでは「ホロ」と呼んでいます。二十年ほど前までは同様に花飾りを作つて集落内を回っていました。現在は「ゴシン」と呼ばれる最上部を集落センターにお祭りするのみとなりました。地区の人はそれをお参りに行き、無病息災を願うそうです。

いずれにしても市内の他地域はもちろん、市外でも行われていない風習です。今年の夏は、六字様を見に行つてはいかがでしょう。

聞き取り調査にあたり、内田昭次氏、佐藤三千六氏、相田功氏にお世話になりました。

(歴史民俗資料館)



▶版木で摺ったお札